

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 25 年 8 月 29 日 (2013.8.29)

【公開番号】特開 2012-20982 (P2012-20982A)

【公開日】平成 24 年 2 月 2 日 (2012.2.2)

【年通号数】公開・登録公報 2012-005

【出願番号】特願 2010-161461 (P2010-161461)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/25 (2006.01)

A 6 1 K 8/36 (2006.01)

A 6 1 K 8/88 (2006.01)

A 6 1 K 8/81 (2006.01)

A 6 1 K 8/89 (2006.01)

A 6 1 K 8/02 (2006.01)

A 6 1 Q 1/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 8/25

A 6 1 K 8/36

A 6 1 K 8/88

A 6 1 K 8/81

A 6 1 K 8/89

A 6 1 K 8/02

A 6 1 Q 1/00

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 7 月 11 日 (2013.7.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

光輝性粉体を 50 ～ 90 質量％と、金属石鹸を 0.1 ～ 5.0 質量％と、球状粉体を 0.1 ～ 5.0 質量％とを含有することを特徴とするプレス状粉体化粧料。

【請求項 2】

前記光輝性粉体がハウケイ酸を基盤とすることを特徴とする請求項 1 に記載のプレス状粉体化粧料。

【請求項 3】

前記球状粉体がナイロン、ポリメタクリル酸メチル、シリカ、シリコーン、およびこれらに表面処理を施したものの中から選ばれる 1 種または 2 種以上であることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のプレス状粉体化粧料。

【請求項 4】

前記金属石鹸がステアリン酸マグネシウムまたはステアリン酸亜鉛であることを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれか一項に記載のプレス状粉体化粧料。

【請求項 5】

さらに極性油性成分を 0.1 ～ 10.0 質量％配合することを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれか一項に記載のプレス状粉体化粧料。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

(1) 光輝性粉体を50～90質量%と、金属石鹸を0.1～5.0質量%と、球状粉体を0.1～5.0質量%とを含有することを特徴とするプレス状粉体化粧料。

(2) 前記光輝性粉体がホウケイ酸を基盤とすることを特徴とする(1)に記載のプレス状粉体化粧料。

(3) 前記球状粉体がナイロン、ポリメタクリル酸メチル、シリカ、シリコーン、およびこれらに表面処理を施したものの中から選ばれる1種または2種以上であることを特徴とする(1)又は(2)に記載のプレス状粉体化粧料。

(4) 前記金属石鹸がステアリン酸マグネシウムまたはステアリン酸亜鉛であることを特徴とする(1)～(3)のいずれかに記載のプレス状粉体化粧料。

(5) さらに極性油性成分を0.1～10.0質量%配合することを特徴とする(1)～(4)のいずれかに記載のプレス状粉体化粧料。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

<4> 本発明のプレス状粉体化粧料に配合させる極性油

本発明に係る極性油としては、極性を有する油性物質であれば特に制限されずに挙げることが可能であるが、具体的には、高級アルコール、高級脂肪酸、エステル等を挙げることができる。また上記極性油として、より具体的には、高級アルコールとしてセタノール、ステアリルアルコール等を、高級脂肪酸としてステアリン酸、オレイン酸、イソステアリン酸等を、エステルとして、2-エチルヘキシルパルミテート、2-エチルヘキサン酸セチル、イソノナン酸イソノニル、オレイルステアレート、オクチルドデシルミリステート等の一価アルコールと脂肪酸のエステル、トリ2-エチルヘキサン酸グリセリド、トリイソステアリン酸グリセリド、トリオレイン酸グリセリド、トリパルミチン酸グリセリド等のトリグリセリド、テトラオレイン酸ジグリセライド、トリイソステアリン酸ジグリセライド、ソルビタントリスステアレート、ペンタエリスリトールテトライソステアレート等の多価アルコールと脂肪酸のエステル等を挙げることが可能である。本発明のプレス状粉体化粧料における極性油の含有量は、0.1～10質量%であることが好ましく、より好ましくは3～8質量%である。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

<2> 本発明のプレス状粉体化粧料

表2に示す処方に従ってプレス状粉体化粧料を作製した(実施例12)。また、実施例12を参考に光輝性粉体の量を変えた比較例1、3、金属石鹸量を変えた比較例4、5、球状粉体量を変えた比較例6、7、光輝性粉体の一部がホウケイ酸でない実施例13、金属石鹸の種類を変えた実施例14、球状粉体の種類を変えた実施例15、油性成分の種類を変えた実施例16、油性成分量を変えた実施例17、18もあわせて調製した。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

【表2】

配合原料	実施例12	比較例1	比較例2	比較例3	比較例4	比較例5	比較例6	比較例7	実施例13	実施例14	実施例15	実施例16	実施例17	実施例18
光輝性粉末1(商品名 リフレクスピノゾブパール)	32.00		20.00	40.00	32.00	32.00	32.00	32.00	20.00	32.00	32.00	32.00	32.00	32.00
光輝性粉末3(商品名 リフレクスピノゾブパール)	6.00		5.00	15.00	8.00	8.00	8.00	8.00	10.00	8.00	8.00	8.00	8.00	8.00
光輝性粉末4(商品名 リフレクスピノゾブパール)														
光輝性粉末5(商品名 リフレクスピノゾブパール)	8.00		8.00	10.00	8.00	8.00	8.00	8.00	5.00	8.00	8.00	8.00	8.00	8.00
光輝性粉末6(商品名 リフレクスピノゾブパール)	8.00		8.00	10.00	8.00	8.00	8.00	8.00	5.00	8.00	8.00	8.00	8.00	8.00
光輝性粉末7(商品名 リフレクスピノゾブパール)														
光輝性粉末8(商品名 リフレクスピノゾブパール)	8.00		4.00	8.00	8.00	8.00	8.00	8.00	5.00	8.00	8.00	8.00	8.00	8.00
光輝性粉末9(商品名 リフレクスピノゾブパール)	8.00		4.00	8.00	8.00	8.00	8.00	8.00		8.00	8.00	8.00	8.00	8.00
非ガラス系光輝性粉末1(商品名 タイミロノスターMP115)									20.00					
タルク	13.00	85.00	36.00	1.50	14.99	9.00	17.99	12.00	20.00	13.00	13.00	13.00	10.00	20.98
ステアリン酸マグネシウム	2.00	2.00	2.00	1.00	0.01	6.00	2.00	2.00	2.00		2.00	2.00	2.00	2.00
ポリメタクリル酸メチル球状粉末										2.00				
ポリメタクリル酸メチル球状粉末	5.00	5.00	5.00	2.50	5.00	5.00	0.01	6.00	5.00	5.00		5.00		
アイロン球状粉末													5.00	5.00
ポリエチレン球状粉末											5.00			
2-エチルヘキサン酸セチル	5.00	5.00	5.00	2.50	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	0.01
イソナフテン酸イソノニル	3.00	3.00	3.00	1.50	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	0.01
スクワラン												8.00		
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(質量%)

外観のバール効果(光沢感)	◎	×	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
落下強度(割れるまでの回数)	割れない	割れない	割れない	2回	2回	割れない	割れない	1回	割れない	2回	2回	割れない	割れない	1回
使用時のなめらかさ	◎	◎	△	◎	◎	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
粉とび	◎	◎	◎	×	△	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎